

コシャクシギ *Numenius minutus* Gould

【選定理由】

春秋の渡りで伊勢・三河湾沿岸部の干拓地にある水田や畑地、草生地などに飛来する。1970年代はほぼ毎年のように、1～数羽の記録があり、鍋田干拓地や汐川干潟周辺での記録も多かった。近年鍋田干拓地ではシギ・チドリの生息環境が消失しており、汐川干潟周辺の干拓地からも淡水系のシギ・チドリが生息できる環境が減少している。現在では矢作川河口周辺への飛来が中心となっているが、西三河の干拓地では作付けを米の他に、隔年で麦・大豆の転作を実施しており、水田の環境が大きく変化している。

【形態】

全長 29～32cm、翼開長 68～71cm。上面は黄褐色または褐色で、暗褐色の軸斑がある。頭中央線は淡黄褐色、両側の頭側線は黒褐色、黄褐色の眉斑がある。過眼線は暗褐色であるが、目先の部分是不明瞭で嘴まで至らない。腰から上尾筒にかけては黒褐色の横斑があり、飛翔時に一様に見える。チュウシヤクシギと比較して、嘴はかなり細く、かなり短い。



愛知県西尾市, 2015年4月23日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りで、伊勢・三河湾沿岸の農耕地や草地に飛来する。

【国内の分布】

春秋の渡りで少数が国内各地に飛来するが、九州地方での記録が比較的多い。

【世界の分布】

シベリア東部で繁殖し、東部インドネシア、ニューギニア、オーストラリアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

飛来環境は大半が沿岸部の干拓地である。他のシギ類のように湿潤な場所に飛来することもあるが、比較的乾燥した刈田や開けた畑、草地などにも飛来して、地面を移動しながら主に昆虫を捕食する。春は4月から5月、秋は主に8月から10月に1～数羽で飛来する。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内においては、鍋田周辺、矢作川河口周辺、汐川干潟周辺の干拓地を中心に飛来記録があるが、近年はいずれの干拓地でも耕地が商工業用地などへ転用され、特に東日本大震災以降は太陽光発電パネルの設置などによる環境の変化が著しい。

【保全上の留意点】

主な生息地である県内沿岸部の干拓地から農耕地が少しずつ消失してきたが、近年は特に環境の変化が著しい。県内沿岸部の農地は、国内の他県や世界各地と比較しても、気象条件や市場の近さなど、農業を行う上でかなり立地条件に優れていることを再認識するべきである。県内の農業を振興することで、ここに生息する野生生物との共存も考えていくべきである。

【特記事項】

本種は干潟や淡水湿地にも飛来するが、シギの仲間の中では比較的乾燥した環境も好む。環境省が実施しているシギ・チドリの全国調査では調査されない場所にも飛来する可能性があり、沿岸部に位置する地方空港の草地なども、この種の好む環境と思われる。

本種は、種の保存法で国際希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.137. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)